

MYP の取り組み その8

資質・能力育成 — Communicators を育てる指導 (資料編)

An Approach to MYP Part 8

Instruction to Foster Competencies and Abilities for “Communicators”

外国語科

秋森久美子 雨宮真一 枝廣真弓 小松万姫 澤田光穂子
手塚史子 徳 初美 藤野智子 前田健士 吉田遼太郎

はじめに

外国語科では2014年度より、「育成すべき/したい資質・能力と観点別評価に基づいた多様な探究型授業」をテーマに

- (1) 評価規準に即した評価課題や学習活動の検討
- (2) コミュニケーション態度の育成
- (3) 英語運用能力の育成

の3つの課題について重点的に研究を進めてきた。

2015年度は、国際バカロレア中等教育プログラムにおける育てたい学習者像の中から特に「Communicators (コミュニケーションができる人)」の資質・能力に注目し、よりよいCommunicatorsであるために求められる資質と英語運用能力について共通理解をはかり、目標、評価、指導の一体型の授業のあるべき姿を検討してきた。

2016年6月18日に行われた第5回公開研究会においては、「Communicators(コミュニケーションができる人)」の育成を目指した授業実践の一端を示すとともに、分科会においては、“Communicators を育てる指導はどうあるべきか”をテーマに研究会参加者と活発な情報交換、意見交換を行った。

本稿では分科会で示した当日資料の一部を紹介する。

【資料Ⅰ】 Advanced Class の英語学習歴および、外部英語試験の結果

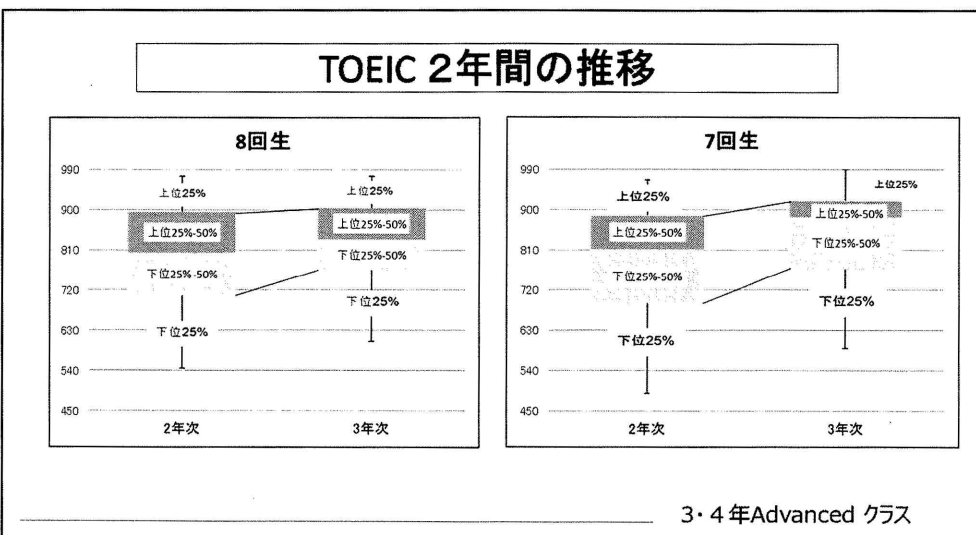
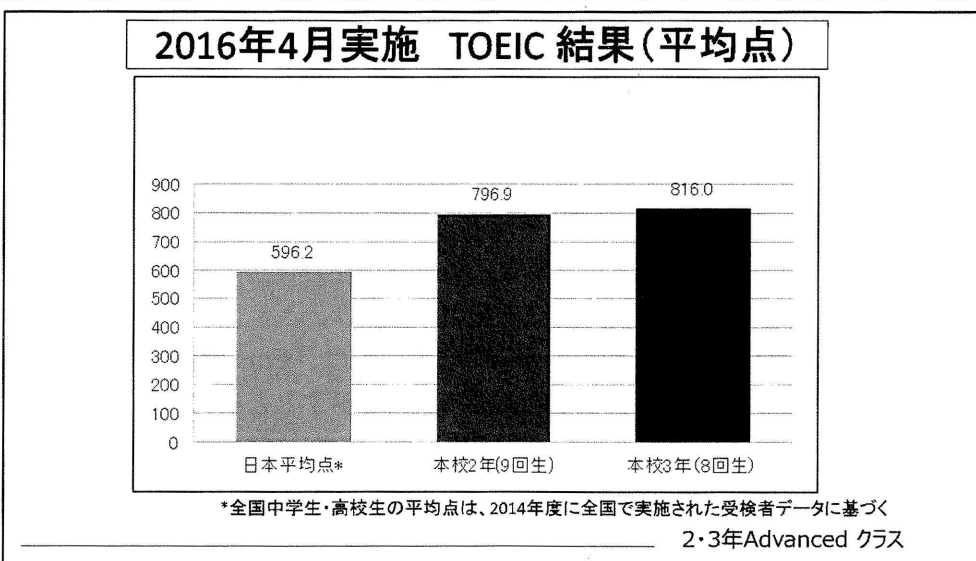
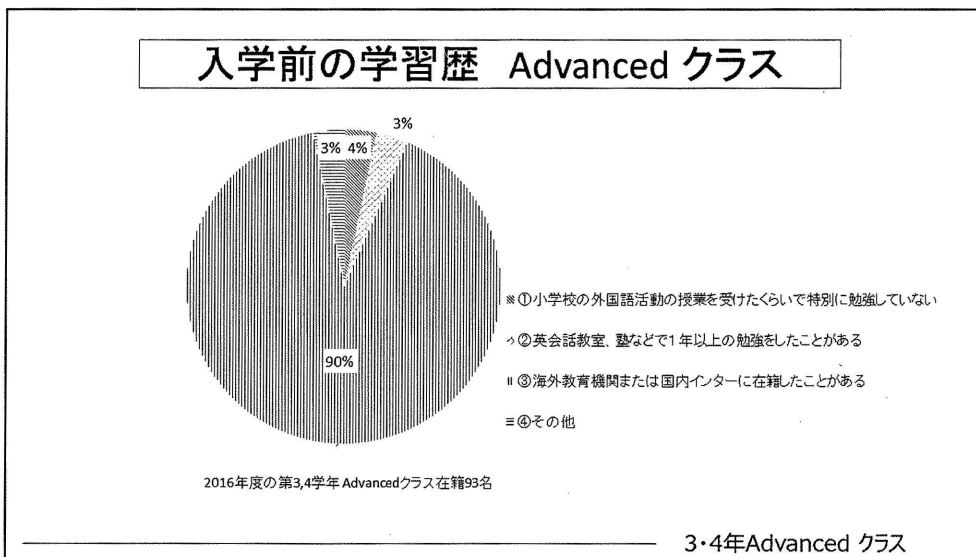
【資料Ⅱ】 Basic/Core Class の英語学習歴および、外部英語試験の結果

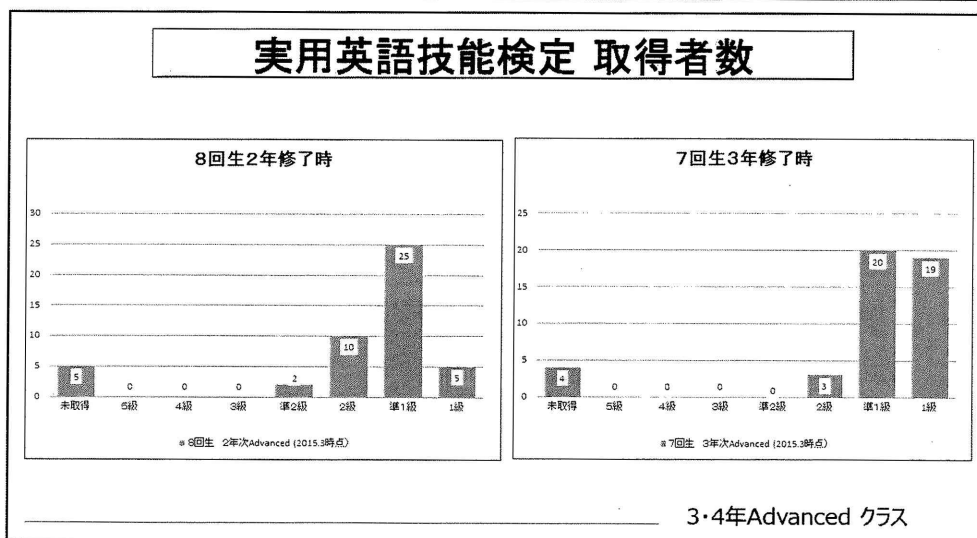
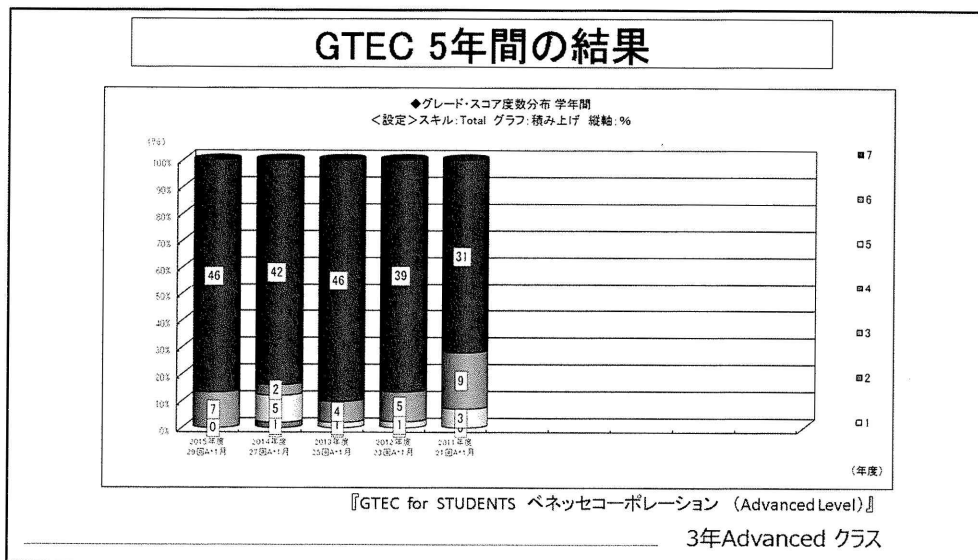
【資料Ⅲ】 生徒の英語授業に対する意識

【資料Ⅳ】 生徒のコミュニケーションに対する態度

* 【資料Ⅲ】 【資料Ⅳ】 (2016年5月アンケート実施 第3学年・第4学年 235名)

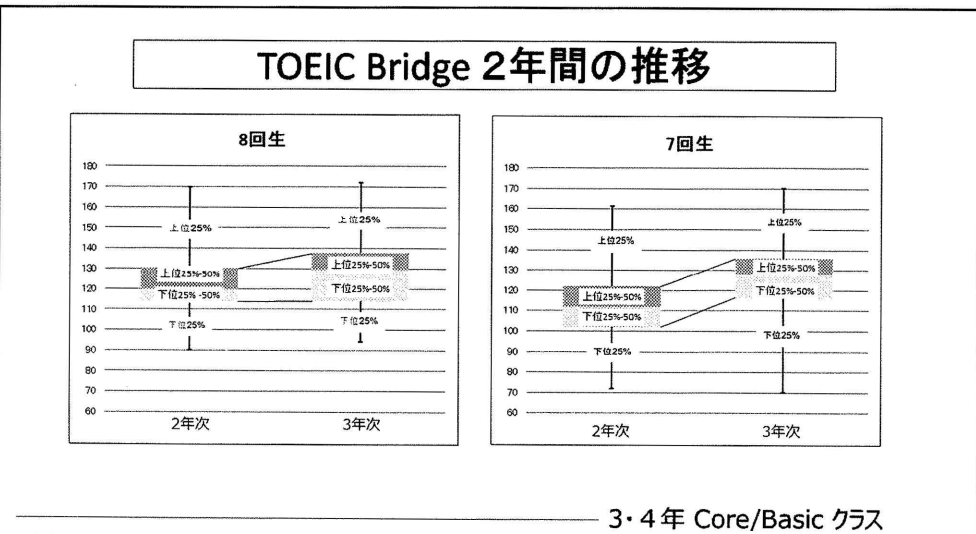
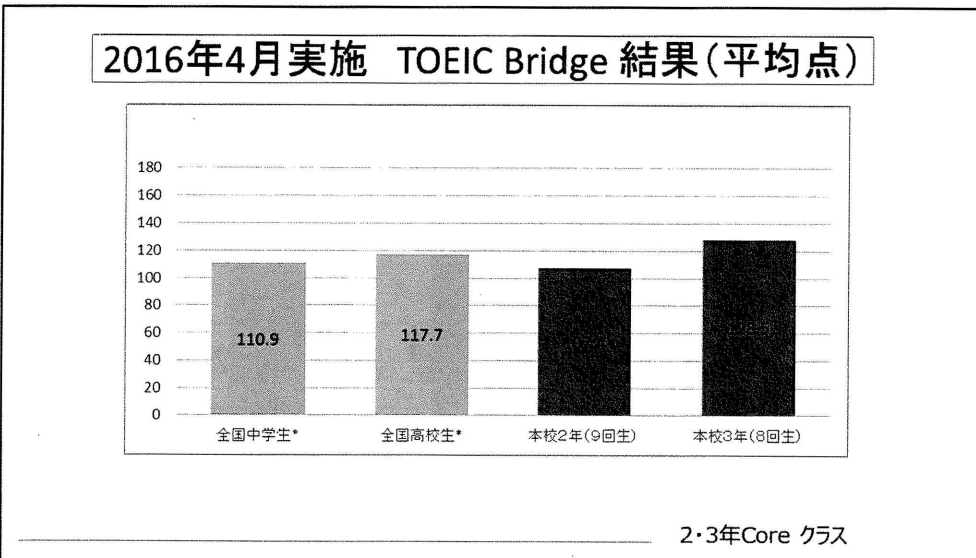
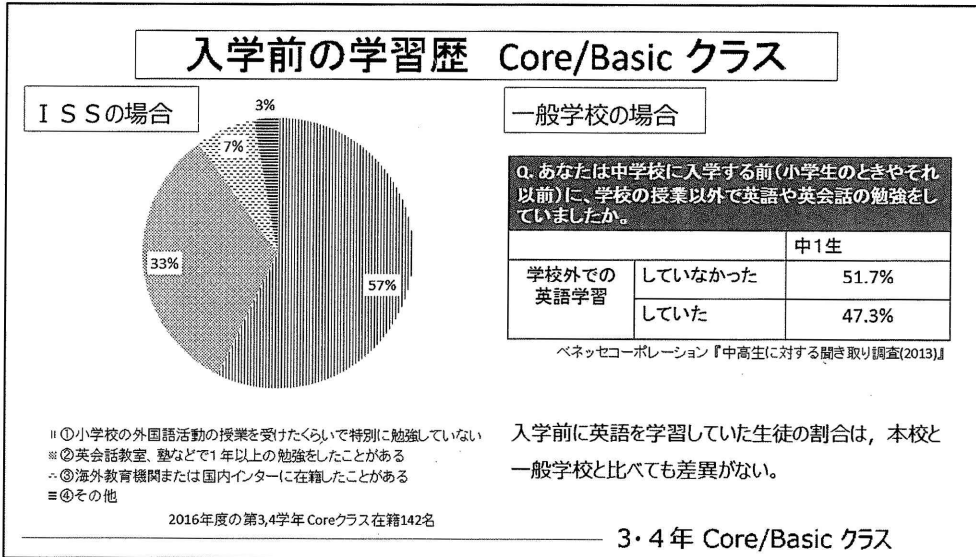
【資料 I】 Advanced Class の英語学習歴および、外部英語試験の結果

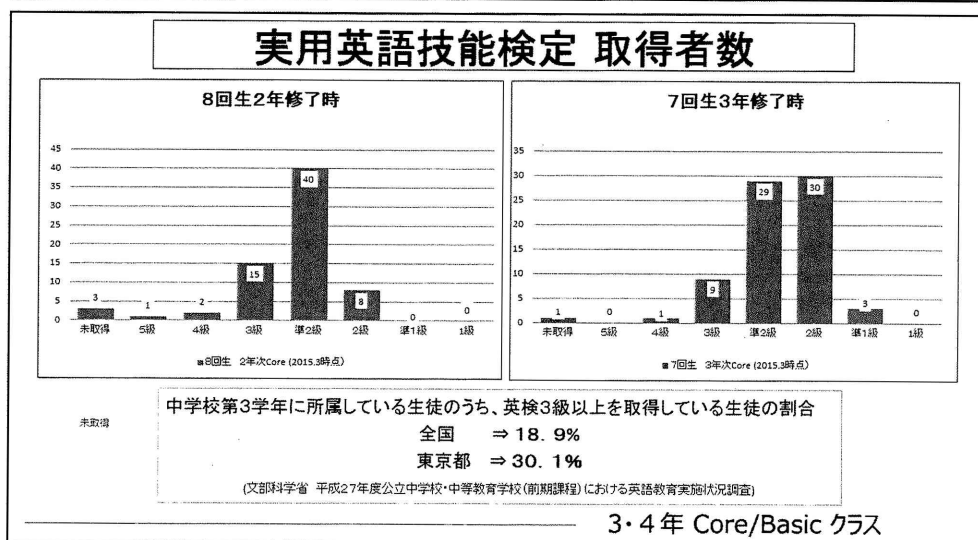
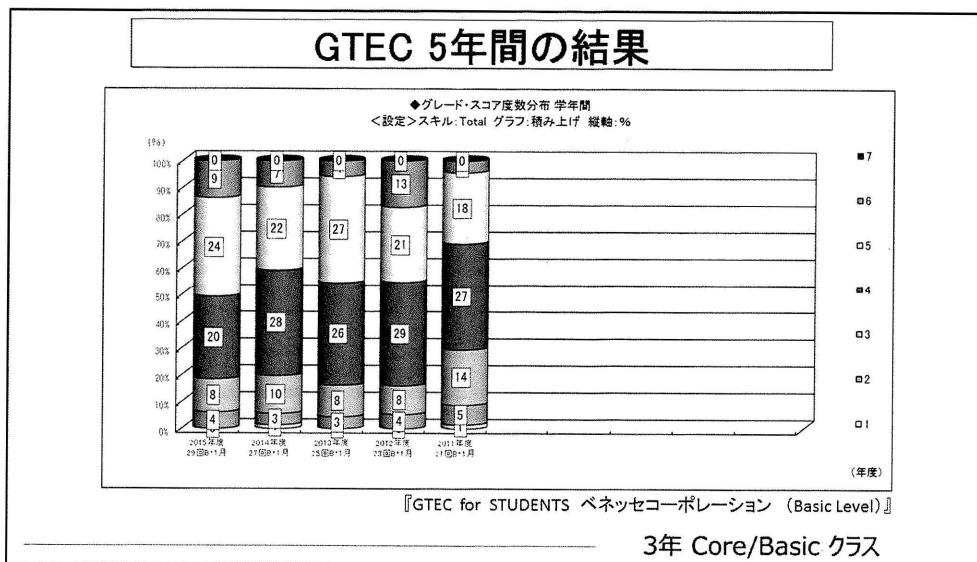




Advanced クラスは、海外教育機関、あるいは国内のインターナショナルスクールに在籍した、いわゆる英語での学習経験がある生徒がほとんどを占めている。したがって、入学時、あるいは編入時から英語運用能力が高い生徒はかなり多いといえる。2016年4月に実施したTOEICも、全国平均を上回る結果を示している。「TOEIC 2年間の推移」を見ると Advanced クラス内で英語運用能力がやや不足気味の間中層、下位層の生徒たちも、本校の英語の授業を受け、少しずつ伸びを示していることがうかがえる。おそらく海外滞在年数等や英語学習環境の違いから生じたであろう Advanced クラス内での英語学習歴の差を、日頃の学習が補ったといえよう。Advanced クラスの生徒は GTEC においても高い成績を修めている。実用英語技能検定では義務教育段階で 2 級、準 1 級、1 級の取得者の数が多くなっている。

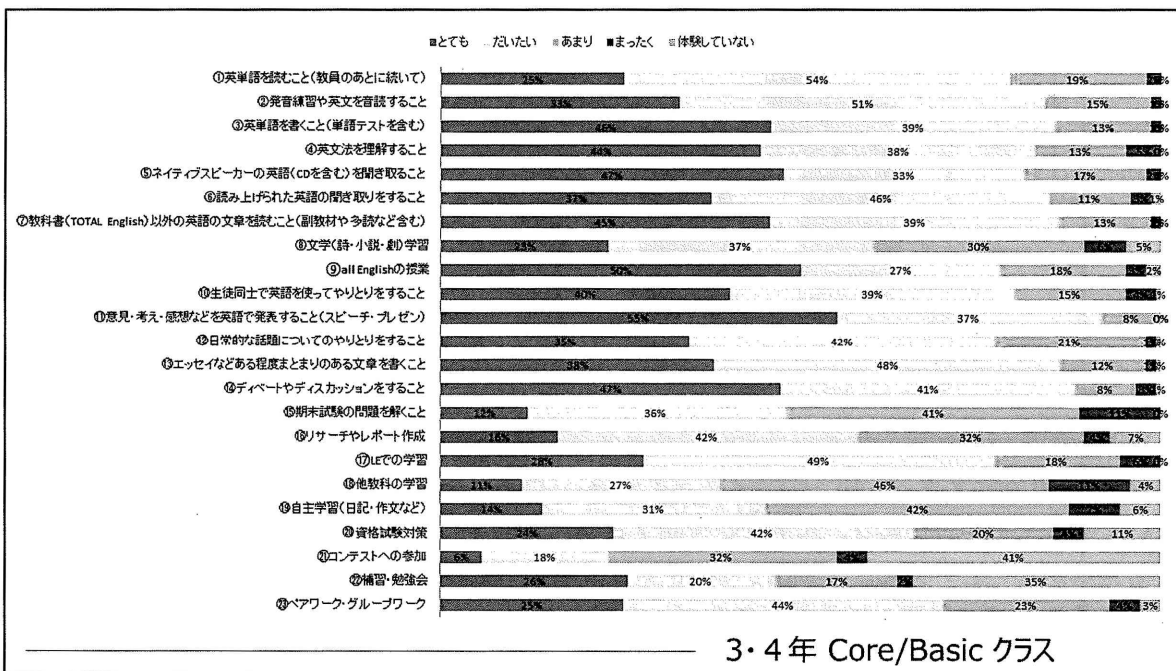
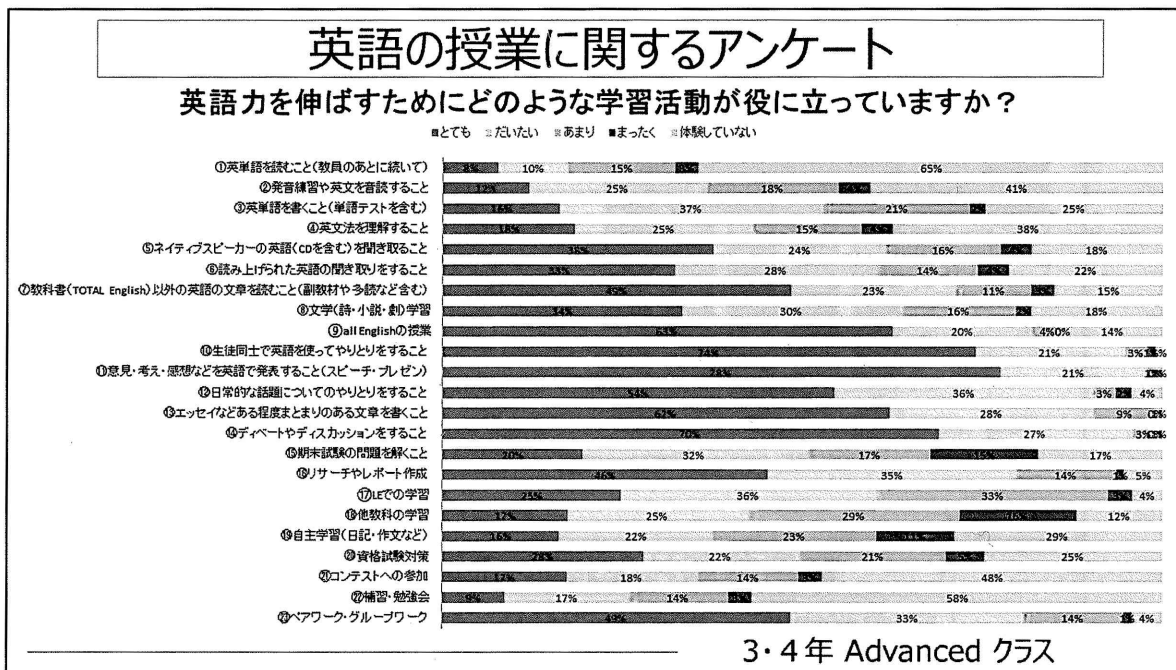
【資料Ⅱ】 Basic/Core Class の英語学習歴および、外部英語試験の結果



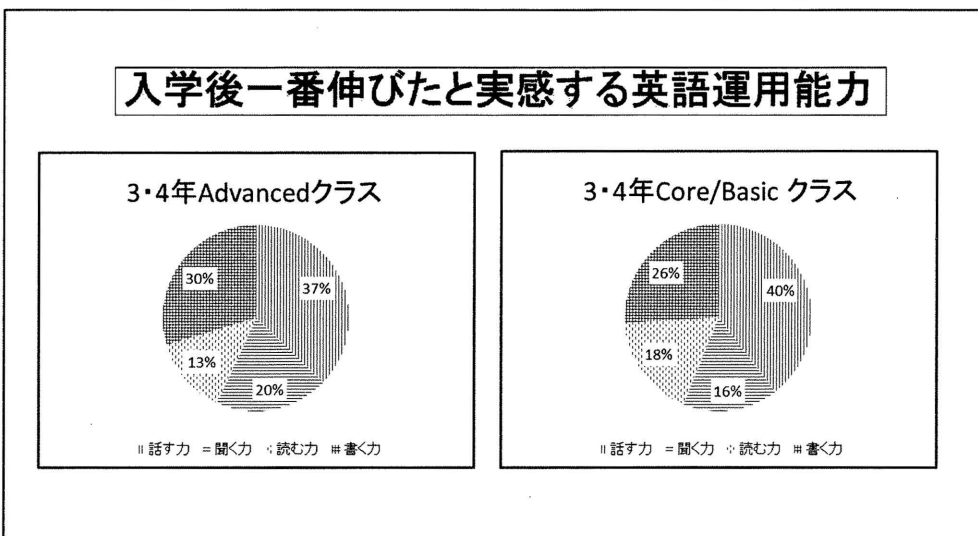


中学入学前に小学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていた割合は、一般学校(47%)、本校 Basic/Core クラス(43%) とほとんど変わらない。むしろ本校生徒の割合のほうが若干少ないくらいである。つまり、入学時の英語学習歴は Basic/Core クラスの場合、一般学校と比べても差異がないといえる。しかし、2016年4月実施の TOEIC Bridge の結果は、中学1年生から1年間本校で学習した中学2年生が、全国中学生レベルの得点を、また2年間学習した中学3年生が、全国高校レベルの得点に達していることを示している。また、「TOEIC Bridge 2年間の推移」においても、中間層に明らかな得点の伸びがある。実用英語技能検定では、中学校第3学年に所属している生徒のうち、英検3級以上を取得している生徒の割合は、全国(18.9%)、東京都(30.1%)を大幅に上回り、本校では2015年3月時点の調査で、中学2年(91.3%) 中学3年(97.8%)と極めて高い。

【資料Ⅲ】生徒の英語授業に対する意識



Communicatorsとして求められる3要素 (育成すべき資質・能力の三つの柱)と学習活動との関わり		
Communicatorsとして求められる要素	育成すべき資質・能力の三つの柱	学習活動
考えや情報を理解することができる	個別の知識・技能	①英語を読むこと(教員のもとに続いて) ②発音練習や英文を音読すること ③英単語を書くこと(単語テストを含む) ④英文法を理解すること ⑤ネイティブスピーカーの英語(CDを含む)を聞き取ること ⑥読み上げられた英語の聞き取りをすること ⑦教科書(TOTAL English)以外の英語の文章を読むこと(副教材や多読など含む) ⑧文学(詩・小説・劇)学習 ⑨all Englishの授業
自信をもって創造的に表現することができる	思考力 判断力 表現力等	⑩生徒同士で英語を使ってやり取りをすること ⑪意見・考え・感想などを英語で発表すること(スピーチ・プレゼン) ⑫日常的な話題についてのやり取りをすること ⑬エッセイなどある程度まとまりのある文章を書くこと ⑭ディベートやディスカッションをすること ⑮期末試験の問題を解くこと ⑯リサーチやレポート作成
他者の考えを尊重し、協力し合い、成果を生み出すことができる	主体性 多様性 協働性 学びあう力	⑰LEでの学習 ⑱他教科の学習 ⑲自主学習(日記・作文など) ⑳資格試験対策 ㉑コンテストへの参加 ㉒補習・勉強会 ㉓ペアワーク・グループワーク

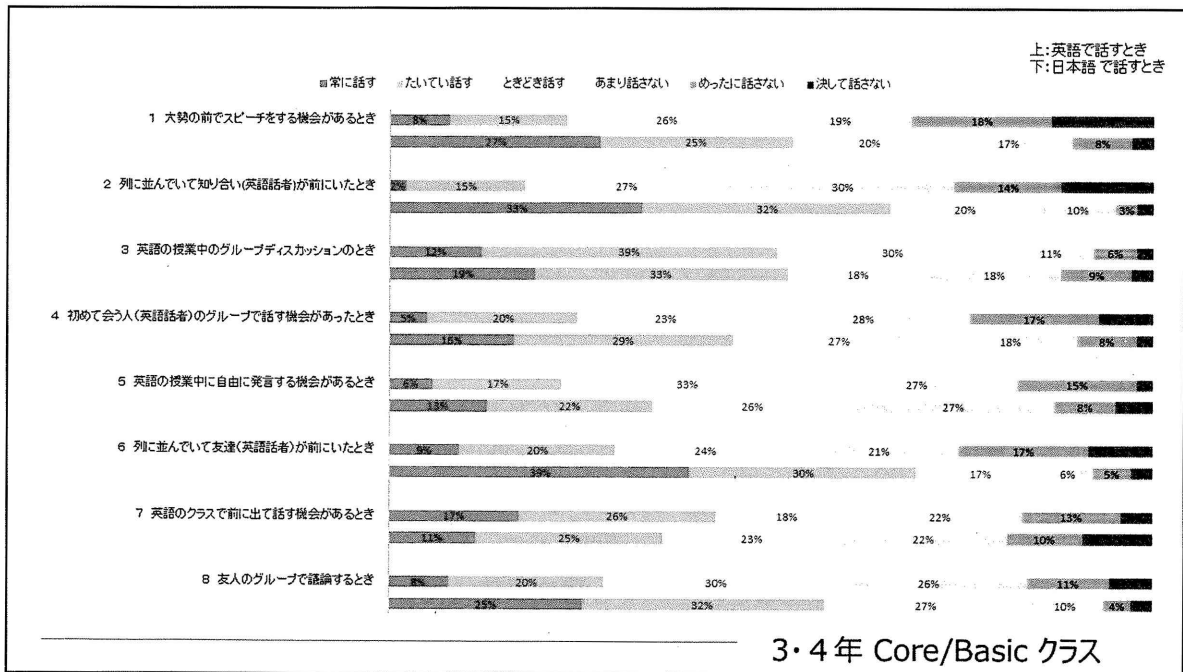
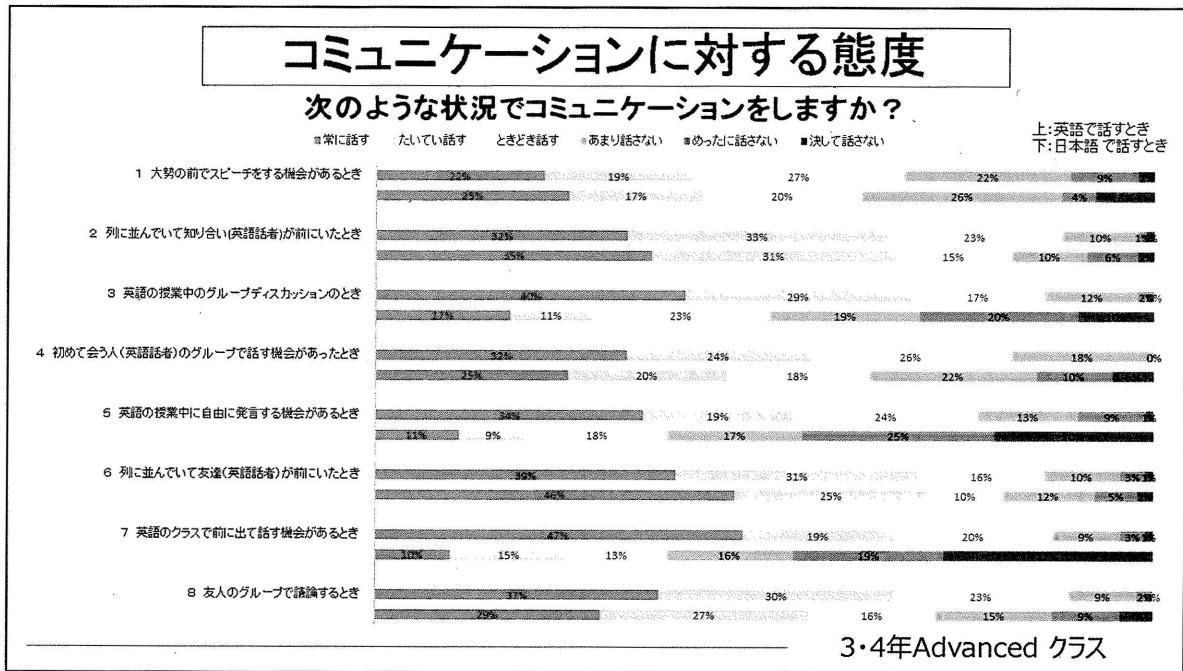


Communicatorsとして求められる3要素を「考えや情報を理解することができる」「自信をもって創造的に表現することができる」「他者の考えを尊重し、協力し合い、成果を生み出すことができる」とした。そしてその目標に向けての指導となる具体的な学習活動を、それら3要素に分類した。

「英語力を伸ばすためにどのような学習活動が役に立っていますか」という質問に対して、Advancedクラスの生徒は「自信をもって創造的に表現することができる」に関わる学習活動の⑩～⑯の項目において「とても役に立つ、だいたい役に立つ」という回答が90%以上を占めた。特に⑪意見・考え・感想などを英語で発表すること(スピーチ・プレゼンテーション)、⑩生徒同士で英語を使ってやり取りをすること、⑭ディベートやディスカッションをすること、の3項目への意識が高い。Basic/Coreクラスでも⑩の項目に対して「とても役に立つ、だいたい役に立つ」と回答した生徒は90%以上であった。AdvancedクラスにおいてのほうがCommunicatorsとして求められる資質(3要素)の中でも「自信をもって創造的に表現することができる」という部分により対応しているといえるが、Basic/Coreクラスでも、生徒はCommunicatorsとして求められる資質(3要素)「考えや情報を理解することができる」「自信

をもって創造的に表現することができる」「他者の考えを尊重し、協力し合い、成果を生み出すことができる」ための学習活動全般を効果的と認めている。入学後一番伸びたと実感する英語運用能力は、Advanced クラス、Basic/Core クラスともに「話す力」と答えた生徒が 40% 近くを占めており、「書く力」とあわせてアウトプットする力に対して成果を見出している。

【資料IV】生徒のコミュニケーションに対する態度



※アンケート項目は Yashima (2009) に基づく

コミュニケーションを取ろうとする態度について、日本語、英語それぞれの場合を想定したものでアンケート調査を実施したところ、特に Advanced クラスの場合には日本語よりも英語で、Core/Basic クラスでは英語よりも日本語の方が積極的にコミュニケーションを取ろうとするという回答となった。しかしながら、いずれの場合も積極的にコミュニケーションを取ろうとする回答の数値は高く、全体の傾向としてこうした態度が育まれていると言える結果となった。

本稿では、Communicators を育成するための授業実践を行っている途中経過として、その目標が達成されつつあるかどうかを、外部英語試験の結果、および、生徒へのアンケートを通じて推し量った。今後も引き続き、教員もまた良き Communicators として教科内でのコミュニケーションを深めつつ、共通の目標を目指した授業研究に努めていきたい。

参考文献

Yashima, T. International Posture and the Ideal L2 Self in the Japanese EFL Context. (2009.

1) In Dörnyei, Z. and Ushioda, E. (eds.) Motivation, language identity and the L2 self. Clevedon, UK: Multilingual Matters. Pp. 144-163.

文部科学省. (2015) 平成 27 年度 公立中学校・中等教育学校（前期課程）における英語教育実施状況調査の結果について.

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/04/06/1369254_5_2.pdf (2016 年 10 月 18 日最終確認)

ベネッセ教育総合研究所. (2014) 中高生の英語学習に関する実態調査 2014.

http://berd.benesse.jp/up_images/research/Teenagers_English_learning_Survey-2014_ALL.pdf (2016 年 10 月 18 日最終確認)

Abstract

At the 5th Open Seminar on June 18th 2016, we have shared parts of our teaching practices to foster competencies and abilities for “Communicators”. During individual subject meeting, we had an active discussion among the participants about “the daily practices to develop the four skills of ‘Communicators’”. Some materials are cited in this chapter.